自殺調査報告書の疑問点

池田　慈（めぐみ）

問　3月20日、中学校生徒の自殺調査報告書が県から市に手渡された。疑問点を明らかにし、うみを出し切り、再発防止策をつくるべき。平成27年度、藤代南中では問題行動が複数あったようだが、学校からSOSや要望はあったのか。

教育参事　出されていない。

問　当時、教育委員会として学校に何か対策したのか。

教育部長　28年度から生徒指導の教員を上乗せて配置している。

問　当時、教育委員会は「自殺したこと」「保護者会を開催すること」の了解を保護者から取ったにもかかわらず、県南教育事務所から「不慮の事故」として公表することを提案されて受け入れた。なぜか。

教育参事　生徒等の動揺を考慮したものと推察。

問　生徒への聞き取りは、なぜ校内教員ではなく、生徒が知らない教育委員会の先生が行ったのか。

指導課長　適当な方法ではなかったと考えている。

問　報告書では先生の指導に問題があったと読める。しかし、28年第1回市教育委員会議事録では「指導に大きな問題がなかった」と発言がある。この差は。

教育参事　生徒に聞き取りをし「ガラスを割った生徒が自ら申し出て明らか」、「教頭の指導対象がガラスを割った生徒1名のみ」といったことから間違いがなかったと結論付けたと分析。今はこの指導に間違いがなかったとは言えないと考える。

【その他の質問】放射能から市民を守ること

通学路安全対策 地域の声を吸い上げて

石井めぐみ

問　通学路の安全確保対策の現状は。

教育部長　小中学校から報告を受けた危険箇所を、関係機関と連携して合同点検を実施。カラー舗装や注意喚起看板の設置、交通安全教室の実施。また学校安全ボランティア、PTAと連携した立哨指導や見守り、職員による青色防犯パトロールなどを実施している。

問　国は「登下校防犯プラン」や「ながら見守り」への取り組みを求めているが現状は。

答　職員の通勤中や公用車による外出中などに、見守りの協力を求めている。

問　働く保護者が多い地域では、子どもが五、六十人いる中、1人での防犯パトロールでは対応し切れない。

学務給食課長　登下校防犯プランが作成され、見守りの空白地帯解消などに対応している。

問　先日、藤代南中、宮和田小、桜が丘小の各PTA会長から通学路の安全確保を求める要望書が提出された。対応は。

建設部長　現場の状況を確認し、対策を検討している。また県管理の部分については、竜ケ崎工事事務所と協議していく。

【その他の質問】災害対策備蓄品・放課後子どもクラブ

安全対策が検討される通学路横断歩道（桜が丘小前）

丁寧な住民対応を！ 吉田・舟山保育所跡地

金澤克仁

問　吉田保育所と舟山保育所の跡地利用計画は。

子育て支援課副参事　令和元年度に、吉田保育所とここに隣接する東部地域子育て支援センター、舟山保育所の園舎の解体工事の設計を行い、工事施工は2年度を予定。

政策推進部長　青柳（あおやなぎ）周辺、カスミ周辺では冠水被害が起きている状況もあり、調整池としての利活用を図ることも選択肢として検討している。

問　吉田保育所の借地部分については、今まで通り契約を継続できるのか。

答　吉田保育所の跡地は公共的な用地の利用で利活用を図っていくよう考えており、現時点では賃借している土地を地主にお返しする考えはない。

問　計画の作成、策定に当たっては地域住民、地権者とよく協議を。

答　関係者の皆さんに丁寧に報告、説明していく。

【その他の質問】定住化促進と住宅地の再生・市道の維持管理

「平成27年9月関東・東北豪雨」による冠水被害の様子（青柳地先）

お悔やみコーナーの設置を

落合信太郎

問　超高齢化時代に対応した窓口サービスの向上として、死亡届提出後の各種事務手続きの現状を伺う。

総務部長　死亡届提出後、他課の窓口でスムーズな対応が可能となるよう取り組んでいる。

問　大分県別府市では、最大13課60種類を超える書類手続きがあると言われる死亡手続きに特化した「お悔やみコーナー」を設置している。1枚の提出届を元に一括で補助し、手続きの必要な課を選別したり、各窓口に案内するなどして、主な手続きを完了していくものである。三重県松阪市では、お悔やみハンドブックを作成し「ぜひお悔やみコーナーをご利用ください。申請書の作成など全力でサポートします」と記載しており、悲しみの中にあるご遺族も救われるものと考える。市としての考えを伺う。

市民課長　当市でも必要となる手続きの案内はお渡ししているが、提案いただいたものを参考に検討していきたい。

【その他の質問】安全安心な町づくり・改正道路交通法による今後の消防団員確保